

重点施策点検・評価表

2-1

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概をはぐくむ学校教育の創造		
重点施策			
1	安定した学校生活の中で、心豊かでたくましい人間力をはぐくむ指導		担当課(館)
	① 学校訪問指導の実施		学校教育課
	活動内容	市教委の指導主事等による年1回以上の学校訪問において、学校の実態に即した適切な指導を実施できるよう、事前訪問を実施したり、諸検査の結果をしっかりと分析したりするなど、各学校の課題や要望を正確に把握するためのさまざまな施策を講じながら学校訪問指導等を行う。また、学校からの要請には、随時対応する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る 学校を訪問する前に、訪問のねらいについて学校と連絡を取り合うなどしたことで、各校の課題に沿った訪問をすることができた。それに伴い、適切な指導を行うことができた。 今年度はふるさと・キャリア教育に係る要請が多かった。大館市が目指す内容と、各校の実態を踏まえながら方向性を具体的に示すことができた。 学校訪問においては、授業の様子だけでなく、朝の会、休み時間の様子なども観察し、児童生徒の実態を幅広くとらえることができた。	
	課題等	学校訪問後の効果的なアフターフォローの実施を含め、より学校の実態に適した指導を検討し、実現していく。 諸検査の結果分析を、各校が指導に活用しやすい形で提供する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	・全ての小・中学校に対して丁寧な訪問がなされている。 ・先生たちを把握して訪問することで、一人一人の特性を生かした指導力向上を図ってほしい。 ・市民サイドからの教育ツーリズムを支援して欲しい。	
	② いじめ・不登校対策事業の実施		学校教育課
	活動内容	いじめ・不登校に関する調査をきめ細やかに実施し、分析した結果を活用しながら、問題行動の改善を図る。 臨床心理士、心の教育相談員を有効に活用しながら、すべての小・中学校において相談活動を適切に行える体制を整え、いじめ・不登校対策を充実させる。 推進委員と協力して、教育委員会の事業である「ふれあい親の会」「ふれあいお楽しみ会」等の充実を図る。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る 各種調査を丁寧に分析し、一人一人の様子を把握しながら、おおとり教室の活用等について学校と連携を図り、適切な支援を行うことができた。 各小・中学校との連絡を密にし、状況に応じて速やかにスクールカウンセラーを派遣した。その結果、早い段階での対応が可能となり、児童生徒や保護者の悩みの解決に役立つ機会が増えた。	
	課題等	各校が今以上に責任を自覚し、不登校及び不登校傾向の児童生徒たち一人一人に寄り添った指導を行っていく。 ふれあいお楽しみ会の持ち方を検討し、不登校児童生徒の参加率を上げ、他と関わりをもつ場を確保していく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	・いじめ等の問題をよく把握し、早期対応できている。 ・いじめ等が起きることに伴い、教師の体罰が発生する場合もあるので注意してほしい。		

重点施策点検・評価表

2-2

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概をはぐむ学校教育の創造		
重点施策			
2	自ら学ぶ意欲と力を身に付けた子どもをはぐみ、更なる学力向上		担当課(館)
	① 「第7次学力向上対策」による子どもと教職員の力を1割アップ		学校教育課
	活動内容	3カ年(平成23年度～25年度)計画の2年目となる。 共通実践事項である「学力向上を目指した学校間の積極的な連携」「活用する力を育てるための授業づくり」を推進していくために、幼保小中の連携を図り、各小・中学校において生徒指導の機能を生かした授業の充実を目指した支援を行う。また、新たに高等学校との連携を推進する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る 各校が具体的に第7次学力向上対策に取り組み、互いに学び合うことができるよう冊子「パワーアップ」を発行した。 保育園と小学校による合同授業を取り入れた公開授業研修会が行われるなど、幼保小中の連携が一層進んだ。 ふるさと・キャリア教育を軸として、高等学校生徒が小中学校で活動する取り組みが増えてきた。	
	課題等	児童生徒の活用する力に向上が見られる学校が出てきている。その成果を市全体に広げていく。 幼保小中高の連携による、子どもの学びの一貫性をさらに推進する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	・小中、幼保小の連携は以前から図られており、それがさらに進んできている。 ・高校との連携が次の課題となる。中学校の教員が高校の授業を見る機会等もあればよい。	
	② ALT・外国語活動支援員による学校訪問		学校教育課
	活動内容	ALT5名という新体制による訪問指導を展開する。 小学校外国語活動の充実のために、外国語活動支援員4名に指導経験豊富なALTも加えて派遣し、効果的な指導を促す。中学校においても、さらに積極的なALTの活用を図り、生徒の英語力、コミュニケーション能力の向上を図る。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る ALTの指導力を高めるための支援が効果的に行われており、5名のALT全員が児童生徒に対し質の高い関わりを見せている。 小学校外国語活動においては、ALT・支援員が自ら進んで児童と関わることで、児童にも積極的なコミュニケーションをとろうとする姿がより多く見られるようになってきた。 ALTが中学生海外研修事前学習会等にも進んで協力し、学校外でも児童生徒が英語や外国文化にふれる機会を設けている。	
	課題等	ALTの指導力をさらに生かすことのできる授業改善を推進する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	・ALT5名の体制はぜひ今後もキープし、子どもたちの英語力向上に生かしてほしい。 ・ALTの力を生かし、英語科の教員の指導力向上も図っていく必要がある。 ・大館の教育を紹介する英文パンフレット作りへの協力等、ALTの幅広い活用を図るとよい。	

重点施策点検・評価表

2-3

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概をはぐむ学校教育の創造		
重点施策			
3	地域と一体となった学校づくり		担当課(館)
	① ふるさと・キャリア教育に基づいた特色ある学校経営の展開		学校教育課
	活動内容	平成23年度は「大館ふるさと・キャリア教育Ⅰ～Ⅲ」を作成し、すべての学校の実践をまとめることができた。 このことを、ふるさと・キャリア教育のスタートとし、地域の「人財」を教育活動に導入したり、地域への貢献活動を実践することによって、すべての小・中学校が大館の元気の源として、特色ある教育活動が展開できるよう環境の整備に努める。	
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る 大館市におけるふるさと・キャリア教育の意義が浸透し、各校において自校の特長を生かした実践が行われるようになった。 子どもハローワークの立ち上げにより、ふるさと・キャリア教育が学校だけでなく、地域の方々が主体となることも可能となった。これにより学校と地域が連携した学校経営の充実が見られた。	
	課題等	すべての小・中学校において、ふるさと・キャリア教育を根幹とした経営が図られる体制を整備していく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	・大館市のふるさと・キャリア教育はコンセプトがわかりやすく、活動も充実している。 ・さらなる人材発掘をしながら、人材の活用を図ってほしい。	
	② 大館市版学校評価の充実		学校教育課
	活動内容	学校の主体性を重視し、より具体的な目標と評価指標を定め、PDCACシステムをより一層機能させながら学校経営改善に生きるように支援する。 また、学校評価の結果を分析・検討し、指導主事等の学校訪問や学校の課題解決に生かす。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る 学校の具体的課題を見据え、課題を達成するための目標設定、実践、評価を年2回のサイクルで行うシステムは定着し、学校評価の方法について各校の工夫が見られるようになってきた。 保護者アンケート、児童生徒アンケート結果や学校評価委員からのアドバイスを踏まえ、地域の声を大切にしながら、学校評価が進められている。	
	課題等	学校評価結果を市教委で分析し、各小・中学校の特徴や実態を正確に把握するようさらに努める。その結果を学校訪問時等に生かし、適切な指導を行う。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	・県内でも先進的なすばらしい取り組みである。 ・変化していく市の教育、学校の現状に合うように、今後も取り組みを進めてほしい。		

重点施策点検・評価表

2-4

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概をはぐくむ学校教育の創造		
重点施策			
4	児童生徒の育成に資する教育環境の整備		担当課(館)
	① 学校教育環境適正化(統合)の推進		学校教育課
	活動内容	<p>学校教育環境適正化検討委員会からの答申「大館市の学校統合及び学区適正化に関する将来構想」に基づき作成した「学校教育環境適正化計画(素案)」に従って、地域との話し合いを大切にしながら、具体的に取組を進めていく。</p> <p>平成23年度には、保護者の意見をまとめることができた。この結果を踏まえ、町内会長会と連絡を取り合いながら地域で説明会を開催し、地域の考えをまとめた。</p>	
	点検評価	<p>■目標を上回る □目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る</p> <p>北地区中学校統合委員会を立ち上げ、校名を広く募集するなど、地域の方々の意見を吸い上げながらよりよい学校づくりを目指し、確実に進めることができた。</p> <p>雪沢小学校のPTAと「地域の教育を語る会」を行い、平成26年度に統合する方向性を確認することができた。</p> <p>第二中、花岡中、矢立中のPTAや地域の方々と話し合う場をもち、平成27年度に北地区の新しい中学校として統合する合意を得ることができた。</p>	
	課題等	<p>雪沢小学校の閉校、及び長木小学校への統合に向け、学校が行うこと、市教委が行うことを明らかにし、雪沢地区を含めた新しい長木小学校作りを推進する。</p> <p>北地区統合中学校の新しい学校像をより明確にしていくとともに、第二中、花岡中、矢立中の生徒やPTAの交流等を推進する。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 継続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	学識経験者等の意見	<p>・統合に当たっての文書管理等がしっかりとできるよう留意していくことが必要である。</p> <p>・今後の見通しもしっかりと持ちながら、適正な学校教育環境の整備に取り組んでほしい。</p>	
	② 児童生徒の快適な学校生活を保障する施設・設備等の点検と改善		学校教育課
	活動内容	<p>子どもたちが安全で、安心して健康的な学校生活を送るとともに充実した学習を進めていけるよう、学校内外の環境整備に努める。</p> <p>児童生徒一人一人が存在感をもち、校内が自分の居場所となるよう、児童生徒の成長や活躍を称揚する校内掲示環境づくりを支援する。</p>	
	点検評価	<p>□目標を上回る ■目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る</p> <p>子ども一人一人を認める掲示物がさらに充実する等、生徒指導の機能を生かした校内環境整備が進んでいる。</p> <p>ふるさと・キャリア教育の掲示コーナーを市内全小・中学校で共通に設置した。市の目指す学校教育を校内掲示によって明らかにし、児童生徒や保護者に視覚でも訴えることができた。</p>	
	課題等	<p>学校への配当予算は年々減額を余儀なくされ、学校内では予算の執行に関して軽重をつけながら対応しているが、消耗品等については大変厳しい状況である。予算確保に努める必要がある。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 継続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
学識経験者等の意見	<p>・子ども一人一人を認める掲示物はとても大切である。</p> <p>・子ども一人一人を認める掲示が、中学校においても充実してきたことはすばらしい。</p>		

重点施策点検・評価表

2-5

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概をはぐむ学校教育の創造		
重点施策			
5	新規事業の取組による学校教育の充実と活性化		担当課(館)
	① 生徒指導・進路指導総合推進事業への取組		学校教育課
	活動内容	学校の教育活動として行われている職場体験等を、学校から地域へ広げるために、「子どもハローワーク」を立ち上げる。このことによって、児童生徒が多様な世代、職種の方々との出会い、交流する機会を拡大させる。 また、市内すべての児童生徒を対象として職業講話の機会を設定し、児童生徒の未来につながるであろう出会いを提供する。	
	点検評価	■目標を上回る □目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る ホームページ、ファックス等を活用し、学校、地域、市教委がスムーズに連携できるシステムを構築し、子どもハローワークを立ち上げ、活動することができた。 延べ1,400名の児童生徒が子どもハローワークを活用して、学校の教育課程外において職場体験を実施した。 きりたんぼ祭り等、大館市を代表するイベントにおいて児童生徒の活躍が見られ、多くの市民から賞賛を浴びた。	
	課題等	子どもハローワークの活動の場の開拓と、市民への一層の周知を図る。 職場体験を児童生徒のキャリア発達に生かすための手立てを工夫する。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
	学識経験者等の意見	・子どもたちのキャリア発達、地域の活性化につながる素晴らしい取り組みである。 ・ホームページの活用を図り、市民の意見も聞きながら進めていってほしい。	
	② 早期からの教育相談・支援体制構築事業への取組		学校教育課
	活動内容	満5歳児すてっぷ相談等で、特別な配慮を必要とする幼児を早期に発見することが可能となった。しかしながら、発見から小学校の入学までの支援体制はまだ十分でない。 そのため、正確な実態把握から保護者の理解の促進、療育、トレーニング等、就学までに必要となる支援体制を構築する。 また、就学前の幼児を支援する大館市の組織を福祉課と協議しながら整備する。	
	点検評価	□目標を上回る ■目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る すてっぷ相談は開始から2年目となり、よりスムーズに運営できるようになった。 就学前児の学校生活へ適応する力を高めるため、幼児通級指導教室を開始することができた。	
	課題等	市に多様な保育施設が混在する中で、統一した方針で共通実践していくための手立てを講じる。 子どもの状況に応じた適切な対応や支援を行っていくために、療法士等の専門スタッフを確保する必要がある。	取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度
学識経験者等の意見	公立の幼稚園がなくなったこともあり、幼保との連携はこれまで以上に大切になってくる。		